

令和2（2020）年度

高松大学・高松短期大学 自己点検・評価報告書

令和3年11月

## 【評価の基準等】

### 1. 事業別評価

○年度計画に掲げられた事業ごとの実施結果を評価 ○新型コロナウイルスの影響により事業が実施できなかった場合は、「評価」の欄は「-」とする		
基準	内 容	評 価 の 目 安
Ⅳ	年度計画を十分に実施している	事業を実施し、十分に期待する結果や成果を挙げたとき
Ⅲ	年度計画を概ね実施している	事業を実施し、概ね期待する結果や成果を挙げたとき
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない	事業を実施したが、期待する結果や成果を挙げられなかったとき
Ⅰ	年度計画を大幅に下回っている 又は実施していない	事業の実施に至らず引き続き検討段階であるとき 又は取り組みをしていないとき

### 2. 大項目別評価

- 中期目標・中期計画の大項目ごとの実施状況の評価
- 事業ごとの評価のⅣ～Ⅰを4点～1点に換算し、大項目ごとの合計点を事業数で除して得た点数（平均点）で評価

### 3. 全体評価

- 本学全体の状況の評価
- 大項目別評価と同様の方法により算出した平均点で評価

## 令和2年度 自己点検・評価結果

中期目標・計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和2年度)	実施結果 (令和2年度)	評価
<p><b>1. 理念・目的</b></p> <p>理念・目的の周知については、全学及び各学部・学科の目的を学則に定め、ホームページで公表するとともに、建学の精神、教育理念、教育目標をホームページや入学案内、学生便覧に掲示して周知・広報した。</p> <p>また、今後10年間の本学の運営の指針となる「高松大学・高松短期大学ビジョン2030」と、ビジョンを実現するための行動計画であるアクションプランを策定したところであり、今後、アクションプランを中期目標・中期計画に反映し、中期計画に基づいて作成する毎年度の事業計画を通じてビジョンの実現を図ることとしている。</p>			
<p>【1】大学・研究科・短期大学の理念・目的の周知</p>	<p>□大学・研究科・短期大学の理念・目的の周知を図る。</p> <p>建学の精神、理念、目的について、在学生には学生便覧及び大学院履修要項等に明記して周知徹底を図る。</p> <p>また、入学案内及びホームページを通じて、社会に広く公表する。</p>	<p>・建学の精神、理念、目的について、学生便覧及び大学院履修要項等に明記し、配布を行った。また、新入生については、学部・学科オリエンテーションの中で周知した。</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>【2】大学・研究科・短期大学の理念・目的に基づいた適切な教育研究等の実施、点検・評価及び検証並びに外部評価の実施と公表</p>			
<p>【3】本学の建学の精神・教育理念に基づいた、ビジョンの策定と、その具体化に向けた中期目標・計画の改善</p>	<p>□ビジョンの策定及び中期目標・計画の修正</p> <p>今後10年間の本学の運営の指針となるビジョンを策定するとともに、ビジョンを踏まえ、中期目標・計画について必要な修正を行う。</p>	<p>・ビジョン検討委員会、ワーキンググループでの審議を重ね「高松大学・高松短期大学ビジョン2030」及び「アクションプラン」を策定し、8月25日の理事会及び評議員会において承認された。</p>	<p>Ⅲ</p>
<p><b>2. 内部質保証</b></p> <p>内部質保証を推進するため、「内部質保証の方針」及び「内部質保証推進規程」を定め、内部質保証に責任を負う組織として内部質保証推進委員会を設置することとした。</p> <p>また、令和元年度に実施した事業について自己点検・評価を行うとともに、自己点検・評価の客観性や妥当性を確保し、本学の優れた点や改善を要する事項等について意見を求めるため新たに外部評価委員会を設置して外部評価を実施した。</p> <p>さらに、令和3年度に実施される短期大学の認証評価受審に向けて自己点検・評価活動を行い、報告書の作成を進めた。</p>			
<p>【4】学長・副学長・大学学部長・短期大学学科長・有識者で構成する「内部質保証推進会議(仮称)」の設置と、内部質保証の</p>	<p>□自己点検・評価活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価委員会(全学委員会)の着実な運営</li> <li>・外部評価委員会の設置</li> <li>・認証評価(大学:2022年度受審、短期大学:2021年度</li> </ul>	<p>・令和元(2019)年7月に制定した自己点検・評価実施規程に基づき、自己点検・評価委員会において評価方法等を定め、令和元(2019)年度の自己点検・評価を実施した。自己点検・評価委員会で各部局等による評価結果の検証を行った。令和</p>	<p>Ⅳ</p>

<p>ための全学的な方針、手続等の制定、適切な評価、教育研究等の積極的な情報発信</p>	<p>受審)に向けて自己点検・評価活動を行うとともに認証評価機関(大学:日本高等教育評価機構、短期大学:大学・短期大学基準協会)の説明会・セミナーへの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期目標・計画の実施状況の公表</li> <li>・教育研究活動のデータベース化</li> <li>・財務情報の公表</li> </ul>	<p>2(2020)年8月に制定した外部評価委員会規程に基づき、自己点検・評価結果を外部評価委員会において評価を受けた。これらの評価結果を3月に自己点検・評価報告書と外部評価委員会報告書としてホームページに公表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度に大学・短期大学基準協会による短期大学の認証評価受審に向けて、短期大学認証評価WGで協議を重ね、令和2年度の自己点検・評価活動を行い、報告書の作成を進め、令和3年5月の理事会に諮ることとした。新型コロナの影響のため、大学・短期大学基準協会の説明会は動画配信となり、ALOと事務担当者が視聴した。2022年度に日本高等教育評価機構による大学の認証評価受審に向けて、大学認証評価WGを設置し、令和3年3月に協議し、報告書の作成を進めることとした。</li> <li>・内部質保証を推進するため、「内部質保証の方針」及び「内部質保証推進規程」を制定し、令和3(2021)年4月1日から施行することとし、学長・副学長・大学学部長・短期大学学科長者で構成する「内部質保証推進委員会」を設置した。</li> </ul>	
<p><b>3. 教育研究組織</b></p>	<p>経済のグローバル化やインバウンド客が急増している現状を踏まえ、社会の要請により適合するよう、秘書科に「グローバルビジネスコースを設置したものの、新型コロナの影響もあり、令和3年度の秘書科全体の入学者数は入学定員を下回ったが、次年度以降の入学者の増加を期待している。</p>		
<p>【5】本学の建学の精神、理念・目的の実現、社会の要請に対応するために適切な教育研究組織等の整備と整備状況の点検・評価等</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな視野とスキルを持ち、ビジネスやサービスの分野で幅広く活躍できる人材を育てることを目的に、令和2(2020)年度4月に、秘書科にグローバルビジネスコースを開設した。</li> </ul>	<p>III</p>
<p><b>4. 教育課程・学習成果</b></p>	<p>全学及び各学部・学校ごとに「学位授与の方針」及びそれを達成するため「教育課程編成・実施の方針」を定め、初年次教育、教養教育専門教育、キャリア教育等を体系的・組織的に実施した。</p> <p>また、教育の質の向上を図るため、機関レベル(大学・短期大学レベル)、学部・学科レベルで学習成果を見直し、明文化した。短期大学においては、学習成果の獲得状況を評価・判定するとともに、その結果をフィードバックするため、学習成果の評価項目や活用方法等を</p>		

	<p>定め、令和3年度から運用することとした。</p> <p>Society5.0に対応した人材の育成を図るため、Society5.0推進グループを設置して教育内容や学習環境の整備について検討を行った結果令和3年度から大学において、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の要件を満たすカリキュラムを実施することとした。</p> <p>また、令和3年1月に大学教育検討会を開催し、全学共通科目の効果測定及び改善について検討を行い、令和4年度全学共通科目の見直しすることとした。</p>		
<p>【6】地域社会に貢献できる幅広い職業人の育成をめざす「人間教育」の推進</p>	<p>□入学前教育</p> <p>新入生が大学での授業や学生生活にスムーズに入っていけるような取り組みを実施する。また、その成果を踏まえて、今後より効果的な実施方法・内容を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦図書についての感想文</li> <li>・冊子「仲間となるみなさんへ」の配付</li> <li>・手袋人形、折り紙の製作</li> <li>・入学前説明会、準備セミナーの開催</li> </ul>	<p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に各教員の推薦図書を示し、その1つについて入学までに感想文を提出させ、教員がコメントした。令和2(2020)年度は、コメントに加えて、提出された一部のテーマに関して、議論を行う場を設け、その成果を大学生生活に反映させたいと考えていたが、新型コロナの影響で4、5月が在宅学習となったことから中止せざるを得なかった。なお、読書感想文の提出は81.3%(78/96)であり、目標値(80%)をクリアできた。</li> </ul> <p>(発達科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験合格者の内、二次手続を終えた入学予定者に対して、12月末から順次、学習課題を送付した。また、入学前に入学準備セミナーを開催した。このセミナーでは、入学予定者の入学に際する不安の解消と入学への期待を高めることをねらい、卒業生や在学生からの学生生活上のアドバイスや学生生活の紹介を行った。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3(2021)年度入学生に向けた入学前講座を令和3(2021)年3月25日に実施し、64名全員出席のもと、冊子「仲間となるみなさんへ」を配布し、保育学科における「保育者をめざす学生の心得」と「幼稚園実習・保育実習事前講座」を開催した。例年は、12月中に初回を実施してきたが、今年度は新型コロナの影響を鑑みて、入学直前の3月実施に限定した。なお、手袋人形と折り紙の製作は、新型コロナ対策による時間短縮のため、入学後の授業(子どもと造形表現、子どもと</li> </ul>	<p>IV</p>

	<p>言葉) で配布・制作することになった。</p> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前説明会は、新型コロナ対策のためグループワークの実施方法を一部変更して、12月までの合格者に対しては、1月7日の午前中、1月以降の合格者に対しては、3月26日の午後に実施した。また、全入学予定者を対象に3月26日の午前中に入学準備セミナーを実施した。</li> </ul>	
<p>□学外セミナーの実施</p> <p>学部・学科で学ぶ意欲を高め、学生同士、学生と教員との親睦を図ることを目的とした学外セミナーを実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響で、学外セミナーは実施できなかった。しかし、ゼミナール・研究室活動を通じて、学生同士及び学生と教員との親睦を図ったり、在宅学習期間中には電話による個人面談を行ったり、学生と教員のコミュニケーションを大切にして、学生の不安解消や学習意欲の維持に努めた。また、学外セミナーの代替イベントとして、発達科学部では1、2年生による運動会、秘書科ではクリスマスリース作りを実施し、学生相互の交流や教員との親睦を図った。</li> </ul>	III
<p>□初年次教育の充実</p> <p>高大接続にも配慮し、初年次教育の充実を図り、4年間又は2年間の大学生活を有意義に過ごせる基礎的学力等を修得させる。</p>	<p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育共通のテキスト「スタディスキルズ・トレーニング(実教出版)」を用いた教育により、4年間の大学生活を有意義に過ごせる基礎的学力を概ね修得させた。また、初年次教育の充実を図るため、若手教員を中心に、リメディアル教育の検討を開始した。</li> </ul> <p>(発達科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」及び「児童学研究法」の実施を通して、4年間の学びにつながる研究の基礎の指導を行った。また、初年次教育の充実に向けて、指導内容の見直しを行った。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染対策徹底のため、保育職基礎演習Ⅰと同Ⅱは担当講師や授業形式・内容等を変更して行った。例えば、感染流行地域の県外講師の招聘を中止し、学科教員によるパネルシアター製作や壁面構成等、児童文化に親むための初年次教育を実施した。また、県内講師を招聘し、多職種連携や</li> </ul>	IV

	<p>地域貢献等の内容を充実させる初年次教育を行った。</p> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎演習Ⅰの授業で「ノートの取り方・レポートの書き方」「大学での学び方入門」「基礎学力の補強」を実施した。在宅学習期間中は、遠隔での指導となり個別対応ができなかったが、対応が必要な学生をピックアップし、対面授業開始後に個別サポートを実施した。また、基礎演習Ⅱでは、人生の将来設計を考えることを授業に取り入れ、自分のキャリアについて考えることで、就職活動に必要な準備を行った。</li> </ul>	
<p>□研究室制度を主体とした教育活動の充実</p> <p>本学の建学の精神の具現化である「研究室制度」をより一層効果的に運用するため、学生の実態を踏まえたゼミナール活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員のゼミナール・卒業論文指導力向上方策の検討・実施</li> <li>1、2、3年次演習の学生配属方法の再検討</li> <li>卒業論文発表会及び卒業論文構想発表会の充実</li> <li>ゼミ連絡会の活動の推進</li> </ul>	<p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文中間報告会は11月28日に4つのコース（企業経営、会計、経営情報、スポーツ経営）毎に、3年生参加のもとに実施した。また、ゼミナールの配属については、特に1年次のゼミナールは、多くの教員が担当するよう109名の新入生を12ゼミに配属して、細やかな指導を行った。</li> </ul> <p>(発達科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文発表会及び卒業論文構想発表会においては、新型コロナウイルス感染予防の観点から規模を縮小して実施せざるを得なかった。しかし、運営方法の見直しを通して、参加者が多様な研究テーマの発表を聞くことができるような工夫をして実施した。</li> <li>ゼミ連絡会の運営については、新型コロナウイルス感染予防の観点から、Google Classroomを利用して、複数の会場をオンライン接続して実施した。また、Google Classroomに実施内容の報告を掲載したり、次回の予告動画を投稿したりするなどして、運営方法の見直しを行い、参加者の増加と満足度の向上を図った。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究室活動は、新型コロナウイルス感染対策（3密回避、消毒、飲食禁止等）を徹底しながら、例年どおり実施した。学生間の親睦を深めるとともに、模擬保育を通じて全体の保育実践力の</li> </ul>	IV

	<p>育成・向上にも役立てられている。なお、研究室担当教員は個々の学生理解を深めるための個人面談を2年間で3回（以上）行っている。また、個人面談以外でも、さまざまな相談事や就活・卒業研究指導等の学生指導・支援にも取り組み、必要な場合は学科会議等で学生情報を共有し、対応・対策等に臨んでいる。</p> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究は、研究室担当教員の指導のもと、実習と連動したテーマで、休学中の学生を除き2年生全員が期限内に提出した。卒業研究発表会、各コースから1名ずつ選出した3名で代表者卒業研究発表会を実施した。</li> </ul>	
<p>□学修ポートフォリオ（教職ポートフォリオ）の作成と活用</p> <p>学生自らが成長を記録し、学生が実感できるようにする。また、記入項目の見直しや運用の改善を進める。</p>	<p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修ポートフォリオは、内容の充実に努めたが、新型コロナの拡大で、当初在宅学習となり、必ずしも十分な成果は得られなかった。</li> </ul> <p>(発達科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修ポートフォリオは、毎学期の終わりにそれぞれの学期のまとめとしての意味を持たせて記録をさせた。そして、教職実践演習及び保育・教職実践演習の時間に活用した。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年次の保育職基礎演習Ⅰ及び同Ⅱ、2年次の保育・教職実践演習を通じて、ポートフォリオを作成している。ポートフォリオは“私が「信頼される先生（大人）」として成長するため、「これまでの自分」を振り返り、「今の自分」を厳しく見つけ、「これから取り組むべき課題」を設定する”ためのものである。令和3（2021）年度からは、これに学修成果の獲得状況を学生が評価できるような別紙も加え、2年間の学び（成長）の歩みを分かりやすくまとめ、日々の学習意欲・目的・就職志望等を明確に保持できるよう指導している。</li> </ul> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修ポートフォリオとして、学びの歩みを作成して、2年間</li> </ul>	IV



	の学びをファイルし、就職活動時の自己分析等にも活用している。	
<input type="checkbox"/> 学修到達度の把握 学修成果到達状況を把握するために、学生に対し「学修到達度調査」を実施する。	(経営学部) ・各学生の受講科目の成績に基づいて作成した「6つの力」をレーダーチャート化し、『6つの力』修得度』として学生に配付し、学修到達度を理解させた。 (保育学科) ・令和2（2020）年度に学修成果を見直し、学位授与の方針に対応する12の学修成果を明文化した。今後は、その獲得状況をレーダーチャートにまとめ、学生個々がポートフォリオに保管することになっている。	IV
<input type="checkbox"/> 「卒業論文要約集」等の印刷・配布、「学位論文」の製本・配架	・経営学部では「卒業論文要約集」、発達科学部では「卒業論文要旨集」を印刷し、学生に配布した。また、本来であれば、大学院は「学位論文」を製本し、附属図書館への配架を行うが、令和2（2020）年度は修了生がいなかったため実施していない。	III
<input type="checkbox"/> 各種研究会等へ参加し、正課内での学修を生かして発表を行う。 ・中四国保育学生研究大会 ・日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック研究会	・各種研究会は、コロナ禍のため、中止となったり、急遽、開催方法が対面からオンラインに変更となったりしたため、令和2年度においては参加を見送った。 ・日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック研究会は、新型コロナのため実習を優先させ、参加することができなかった。	—
<input type="checkbox"/> 各種実習の実施 免許・資格取得に必要な実習及び各履修コースに応じた実習を実施することで、学びを深めるとともにコミュニケーション能力や自ら課題を解決できる力を養う。また、必要に応じ実習先の開拓を行う。	・大学においては、新型コロナの影響のため、一部の実習が中止、また次年度に繰り越すこととなった。短期大学においては、実習期間の変更、一部内容を変更する等、資格・免許取得のための条件を満たしてすべて実施することができた。なお、保育実習（施設実習）においては、新型コロナ感染予防の観点から実習生の受け入れを断られてしまうケースが多く発生し、新規の実習先を開拓することで対応した。	III
<input type="checkbox"/> 多様な学修環境の提供 多様な学修環境を提供するために、時代を反映した授業科目の開講、アクティブ・ラーニング等を取り入れた	・新しい時代の教育であるSociety5.0に対応した人材の育成を図るためにSociety5.0推進ワーキンググループを設置し、教育内容及び学習環境整備について検討を行った。令和3	IV

<p>講義法、また、3つの方針に基づき、本学学生の実態を踏まえたカリキュラム改革を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修コースの見直し</li> <li>・シラバス改善</li> <li>・アクティブ・ラーニングの高度化</li> <li>・カリキュラム・マップの見直し</li> </ul> <p>カリキュラムの構造化を更に進め、学生が目的ごとに体系だった知識を身に付けることが出来るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育</li> </ul> <p>就業力養成に主軸をおいた履修プログラムの提供</p>	<p>(2021)年度から、文部科学省の「数理、データサイエンス、AI教育プログラム認定制度」の要件を満たすカリキュラムを、まずは大学から実施する予定である。加えて、e-ラーニングを利用したリメディアル教育を経営学部で実施することとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育学科では令和2(2020)年度に見直した学修成果が反映されるようにシラバス記載を改善した。教務課による「シラバス作成要領」に加え、「【保育学科版】シラバス作成にあたっての留意事項」を作成し、保育学科の全科目において、当該科目で獲得できる学修成果を記載した。</li> </ul>	
<p>□在学期間をトータルに見通した指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教職実践演習の実施</li> <li>・教職実践演習の実施</li> </ul>	<p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次の保育・教職実践演習は計画通り実施された。指導案の作成と教材研究、模擬保育の実践、学生間の評価等、最終セメスタでの保育者になるための総まとめ授業となった。</li> </ul>	IV
<p>□学外活動の充実、外部講師の活用</p> <p>学内での学びを確実にするため、各授業科目の特性を活かし、学外での実習を通して問題解決能力を養ったり、学外講師から広い分野の知識を得たりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響を受けて、外部講師の招聘を中止したり、招聘する場合においても県内からに限る等、新型コロナ感染対策に万全を期して実施した。なお、保育学科においては、新型コロナの影響を受けて、いずれも中止した。ただし、代替授業として学科教員による保育関連授業を充実させ、個別もしくは研究室ごとの製作や発表、掲示等を多用して、保育実践力の育成・向上に努めた。</li> <li>・秘書科の各コースの実習は概ね予定通りに実施した。</li> </ul>	III
<p>□マナー教育の充実</p> <p>マナー教育の一環として、1週間に2回のスーツデーを実施する。</p>	<p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため期間を短縮したが、スーツデーを実施した。</li> </ul>	III
<p>□教育環境の充実</p> <p>医療事務コースの教育環境の充実のため、医事コンピュータ・電子カルテの維持・管理を行うとともに、医療事務コース担当教員が日本医師会認定医療秘書・医事コンピュータ・医療事務に係る会議や研修会に参加する。</p>	<p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、学外の各種会議や研修会はリモートでの参加となった。また、令和3(2021)年度に使用する医療事務コースのリーフレットを2,000部作成した。また、秘書科の各コースで取得可能な検定・資格を記載したリーフレットを</li> </ul>	III

	医療用教材を最新のものにする。医療事務関係の実習先・就職先を確保するため、広報用のリーフレットを作成し医療機関に配布する。 また、パソコン関係の教育の充実のため、パソコン教育担当教員が日商PC検定・MOSの研修会に参加する。	9000部作成した。	
	<input type="checkbox"/> 学生の主体的学習の促進及び適切な履修指導等の実施 ・「履修ガイド」の印刷・配布（大学・短期大学）	・学生の主体的学習の促進及び適切な履修指導等を実施するため「2020履修ガイド」を印刷し、配布を行った。特に新入生に対しては、学生便覧と履修ガイドを活用して、各学生の進路に応じた履修が確実にできるように指導を行った。また、発達科学部では、履修を自分自身で確認するためのシートを用意して、履修指導を行った。	IV
【7】PDCAサイクルに基づく全学的な教学マネジメント体制（内部質保証、IR機能等）による教育の質の向上	<input type="checkbox"/> 運営会議 学長、副学長を中心とし、大学運営について迅速な意思決定を図るために運営会議を定期的に開催する。	・コロナ禍により、書面開催も含めて年7回開催し、経営改善計画、ビジョン、自己点検・評価、内部質保証等の理事会に付議する重要事項について審議を行った。	III
	<input type="checkbox"/> 「学修成果の評価の方針」に従ったアセスメントの実施	・機関レベル（大学・短期大学レベル）、学部・学科レベルにおいてそれぞれ学修成果を作成、明文化した。また、短期大学においては、学修成果の測定項目と活用方法等を定め、アセスメントは令和3（2021）年度から開始し、ポートフォリオ等を活用して、学修成果の獲得状況を学生個々が記録できるように工夫している。	III
	<input type="checkbox"/> 教養教育、数理教育、STEAM教育などを含む全学共通科目の検討	・令和3（2021）年1月28日に大学教育検討会を開催した。本会においては、全学共通科目の効果測定及び改善について検討を行い、令和4（2022）年度全学共通科目の見直しを行うこととした。大学の「総合講座」においてSTEAM教育を行った。	III
【8】研究科修士課程における「教育課程編成・実施の方針」に基づいた体系的な教育課程の編成及び適切な教育方法・履修指導を実施	<input type="checkbox"/> 学生の主体的学習の促進及び適切な履修指導等の実施 ・「大学院履修要項等」の配布（再掲）	・修士の主体的研究を促すように例年指導しているが、令和2（2020）年度については新型コロナの影響で、十分に果たせなかった。	III
【9】学生による授業評価、学修及び	<input type="checkbox"/> 非常勤講師との「教育懇談会」の実施	・「令和2年度非常勤講師との教育懇談会実施要項」に基づき、	III

<p>生活に関する実態調査、授業参観を促進、研究授業の実施、FD研修会の実施等による教育力の向上及び授業内容・方法の改善・充実</p>	<p>非常勤講師と本学教員との教育懇談をすることにより、教育方針等を理解していただく。また、授業を担当して感じられた事、色々なご意見を伺い、今後の教育に生かしていく。</p>	<p>12月19日に教育懇談会を実施した。非常勤講師67名（集中講義、大学院の科目担当教員を除く）へ案内し、22名の出席者のもと開催した。懇談会では活発な意見、感想、要望が出され、充実した会となった。また、実施後はアンケートを行い、その集計結果を教務委員会にて報告を行い、非常勤講師から寄せられた意見等を共有した。</p>	
<p><b>5. 学生の受け入れ</b></p>	<p>学生の受け入れについては、全学及び各学部・学科ごとに「入学者の受け入れの方針」を定め、ホームページで公表するとともに、学生募集要項等に記載し、周知を行った。</p> <p>また、入学者選抜において学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価するものへと改善するため、令和3年度入学者選抜から入試区分及び実施時期を見直すとともに、全ての面接においてプレゼンテーションを実施した。</p> <p>コロナ禍の中、高等学校教員を対象とした説明会の開催、本学教職員による学校訪問、オープンキャンパスの実施等により入学定員に基づいた適切な入学者数の確保に努めた結果、令和3年4月の入学者数は、1学科で上回ったものの、2学部1学科で前年度を下回る事となった。</p>		
<p><b>【10】</b> 説明会、各種相談会・ガイダンス、オープンキャンパス等による「入学者受け入れの方針」の周知及び入学希望者に求める能力を適切に判定することのできる入学者選抜方法の改善</p>	<p><input type="checkbox"/> 大学・短期大学説明会の実施</p> <p>6月に本学で開催する高等学校教員を対象とした「大学・短期大学説明会」の参加校を増やすとともに、実施内容の充実を行う。</p>	<p>・新型コロナ感染状況を鑑み、6月9日に開催する予定であった大学・短期大学説明会は、香川県内の高等学校のみに案内して7月28日に開催し、35校40名の参加があった。新型コロナ感染対策のため、短時間での学部・学科説明であったが、貴重な学生募集の機会となった。</p>	<p>IV</p>
	<p><input type="checkbox"/> 入試評価基準の見直し</p> <p>入学者や受験者の分析を行い、入試評価基準（各入試区分の選抜方法及び観点別配点等）の見直しを行う。</p>	<p>・入学者や受験者の分析を行い、入試評価基準（各入試区分の選考方法及び観点別配点等）の整合性を入学試験委員会に諮り、その妥当性を確認した。</p>	<p>IV</p>
<p><b>【11】</b> 学部・学科・研究科の特色・特徴等を踏まえた入学選抜試験の改善・充実</p>	<p><input type="checkbox"/> 入学者選抜試験の改善・充実</p> <p>・高校生の進学先（出願先）として、受験しやすい試験日や入試区分を調査し、次年度以降の入試日程を検討する。また、文部科学省が開催する説明会等に参加し、大学入学者選抜試験の実施について、理解を深める。</p>	<p>・高校生の進学先（出願先）として、受験しやすい試験日や入試区分を高校訪問やオープンキャンパス等で聞き取り、次年度以降の入試日程を検討した。文部科学省が開催する説明会は中止となった。</p> <p>・学生募集要項を作成するにあたり、新たに選考方法として取り入れたプレゼンテーションについて、説明を詳細に記載し</p>	<p>III</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集要項等の作成 新しい入試制度を判りやすく掲載した学生募集要項や、本学のPR用の案内チラシ等を作成する。</li> <li>・学外試験の実施 県外（岡山、広島、徳島、松山、高知、那覇）の高校生が受験しやすいように、学外試験を実施する。</li> <li>・海外入試の実施 学術交流協定校（西安外事学院、青島旅游学校、ジェンデラル・ステイルマン大学）で入学者選抜試験を実施する。</li> </ul>	<p>た。また、入試のポイントを掲載したチラシを作成し、オープンキャンパス参加者、資料請求者、高等学校にも配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外試験は、学校推薦型選抜（11月実施）は5会場、一般選抜（2月実施）は、4会場で実施した。</li> <li>・学術交流協定校で実施する予定であった海外入試については、コロナ禍のため、実施することが出来なかった。</li> </ul>													
【12】 入学定員に基づいた適切な入学者数の受け入れ及び収容定員の適正な管理	<input type="checkbox"/> 入学定員確保 必要に応じて、各学部・学科の最重点校、重点校、開拓校への訪問に学部・学科の教員も同行し、それぞれの教育内容について説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校訪問は、香川県内により重点を置き、東地区、西地区に分けて2名体制で、オープンキャンパスの案内や入試出願の案内等を行った。また、在学生の出身高校など、学生募集活動として有効な地区を重点的に年間5～6回訪問した。加えて、一部の学部・学科においては、教員が県内高校を訪問し、教育内容について説明した。</li> </ul> <p>令和2（2020）年度入学者数</p> <table border="0"> <tr> <td>経営学部</td> <td>109名</td> <td>（入学定員95名 充足率114.7%）</td> </tr> <tr> <td>発達科学部</td> <td>77名</td> <td>（入学定員80名 充足率 96.3%）</td> </tr> <tr> <td>保育学科</td> <td>55名</td> <td>（入学定員80名 充足率 68.8%）</td> </tr> <tr> <td>秘書科</td> <td>76名</td> <td>（入学定員70名 充足率108.6%）</td> </tr> </table>	経営学部	109名	（入学定員95名 充足率114.7%）	発達科学部	77名	（入学定員80名 充足率 96.3%）	保育学科	55名	（入学定員80名 充足率 68.8%）	秘書科	76名	（入学定員70名 充足率108.6%）	Ⅲ
経営学部	109名	（入学定員95名 充足率114.7%）													
発達科学部	77名	（入学定員80名 充足率 96.3%）													
保育学科	55名	（入学定員80名 充足率 68.8%）													
秘書科	76名	（入学定員70名 充足率108.6%）													
【13】 各種相談会・ガイダンス、オープンキャンパス等の内容・広報の充実、高等学校・塾等への積極的な広報活動と大学案内等の充実	<input type="checkbox"/> オープンキャンパスの充実 オープンキャンパス参加者リピーターの受験率が高いことから、複数回の参加を促すような内容で「もう一度行きたいオープンキャンパス」をめざし、学生が中心となった体験学習を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年6回実施しているオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染防止のため、2回中止、1回は代替行事に変更して実施した。また、追加開催を含め、オープンキャンパスとしては4回、入試相談会を1回実施した。開催にあたっては、在学生からのメッセージ動画、社会で活躍している卒業生のビデオメッセージを紹介する等、創意工夫を凝らした。また、参加者条件や人数制限を設け、新型コロナウイルス感染対策を徹底した上で実施した。参加者数（延べ数）は、549名（経営129名、発達150名、保育133名、秘書137名）であり、オープンキャンパス参加者の受験率は、70%を上回る結果となった。</li> </ul>	Ⅲ												

<p>□2022入学案内、2021入学案内別冊リーフレット、学園だより「かすが」、学科紹介のリーフレットの制作・配布</p>	<p>・2021年3月に2022入学案内を制作。今回から各学部・学科の学生インタビュー動画を本学HPに公開し、入学案内にそのQRコードを掲載してHPに誘導する工夫を行った。2021入学案内を募集要項とともに高校生等に配布した。2021入学案内別冊リーフレット、学園だより「かすが」（6月・9月・3月）に制作し、JR高松駅やことでん瓦町駅に設置のパンフレットラックに配架するなどした。</p>	<p>III</p>
<p>□入試広報</p> <p>新聞、受験雑誌・WEB等を活用した有効な広報活動を行う。また、出願期間に合わせたポスター掲出等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパス告知のためのCM</li> <li>・新聞広告、自治体の窓口用封筒広告、学生が参加する事業広告（むれ源平石あかり等）、カマタマーレ讃岐（ピッチボード広告）など。</li> <li>・JR高松駅、ことでん瓦町駅、マリンライナー車内広告、ことでんバス車内放送、県営野球場グラウンドフェンスの広告を中心とする屋外広告</li> <li>・インターネット広告（Google AdWords）の活用</li> <li>・ホームページ、Facebook、ブログによる情報発信</li> </ul>	<p>・新型コロナ感染状況を踏まえたオープンキャンパス実施の見直しに伴い、オープンキャンパス告知のCMを7・8月に放送し、大学・短期大学紹介のCMを5・6・9～12月に放送した。</p> <p>・コロナ禍により四国新聞オアシス掲載の大学紹介やむれ源平石あかりロードやシーサイドウォークのイベントが中止となり事業広告ができなかった。</p> <p>高松市他5自治体の窓口封筒広告を行った。カマタマーレ讃岐の試合での広告は、これまでのピッチボード広告を見直し、2月から横断幕広告に変更した。</p> <p>・屋外広告については、引き続きJR高松駅（改札コンコース円柱）、ことでん瓦町駅（電照コンコース柱面）、マリンライナー車内広告、ことでんバス車内放送、県営野球場グラウンドフェンスの広告を行った。</p> <p>・検索サイト利用において広告表示させるGoogle AdWordsを活用しインターネット広告を行った。</p> <p>・経営学部ではブログ「いつかユキチ」により情報を発信した。また、保育学科では令和3（2021）年3月9日に保育学科公式サイトをリニューアルし、現在は月2、3回のペースで更新し、学科の行事や授業、研究室活動等の様子を発信している。</p>	<p>III</p>
<p>□高等学校への派遣事業</p> <p>教員による出張講義、学部・学科説明、分野別模擬授業への講師派遣、高等学校との連携教育を積極的に行う。</p>	<p>・高校単独開催や会場形式による各種進学相談会等に参加し、本学の案内・説明を行った。学生確保に有効な模擬授業・体験授業等の出前講義には各学部・学科と連携をとり、「専門教員による分野別説明・模擬授業」（36回）、「教職員によ</p>	<p>III</p>

	<p>る進学相談会」(18回)に参加した。(オンライン形式を含む)</p> <p>専門教員による分野別説明・模擬授業(内訳)</p> <p>経営学部 12回</p> <p>発達科学部 18回</p> <p>保育学科 6回</p>	
<p>□高校訪問</p> <p>香川県内を中心に本学の情報提供の充実を図るとともに、高校個別にも丁寧に対応していく。また、在学生の出身高校、オープンキャンパス参加者の在籍高校など、入学希望者が見込める高等学校には重点的に訪問し、最新の情報提供を行う。</p>	<p>(再掲)</p> <p>・高校訪問は、香川県内により重点を置き、東地区、西地区に分けて2名体制で、オープンキャンパスの案内や入試出願の案内等を行った。また、在学生の出身高校など、学生募集活動として有効な地区を重点的に年間5～6回訪問した。加えて、一部の学部・学科においては、教員が県内高校を訪問し、教育内容について説明した。</p>	IV
<p>□県内大学合同説明会への積極的な参加</p> <p>香川県及び県内大学・短期大学・高等専門学校で構成されている大学コンソーシアム香川が実施する合同進学説明会に各学部・学科の協力を得て、積極的に参加する。</p>	<p>・大学コンソーシアム香川が主催する県内大学等合同説明会が3校(琴平、高松中央、高松東)で開催されたことに伴い、各学部・学科の協力を得て参加した。</p>	IV
<p>□同窓会を活用した募集活動</p> <p>同窓会報の発行や総会・部会の機会を利用した大学情報・入試情報の提供、オープンキャンパスでの保護者対象説明会や個別相談において説明を充実させる。</p>	<p>・受験生の2親等以内に本学卒業生又は在学生がいる場合、申し出により入学検定料を免除する制度に、令和3(2021)年度入試では34名からの申請があった。</p>	III
<p>□大学見学の受入れ</p> <p>高等学校から要望があれば、少人数での見学についても積極的に受け入れる。また、個別に大学見学の要望があれば、随時受け入れる。</p>	<p>・高校単位の大学見学受入れ1校(高松北PTA)を行い、大学・短期大学の概要説明、卒業生との懇談、授業見学、キャンパス見学等を行った。</p>	II
<p>□高等学校との連携事業・高大接続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かがわの高校生地域創生ビジネスアイデアコンテスト</li> <li>・高校生のための保育体験ツアー</li> <li>・近県高等学校英語弁論大会</li> <li>・たーちゃん絵本ひろば</li> </ul>	<p>・かがわの高校生地域創生ビジネスアイデアコンテスト</p> <p>香川県高等学校教育研究会商業部会と本学大学院ベンチャークリエーション研究所共催の「第16回かがわの高校生地域創生ビジネスアイデアコンテスト」を開催し、5校5チーム(志度、三木、高松商業、坂出商業、観音寺総合)の参加があった。新型コロナウイルス感染防止を考慮し、動画でのプレゼンテ</p>	III

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チアダンスステージin高松大学・高松短期大学</li> </ul>	<p>ーション審査とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生のための保育体験ツアー 「保育者をめざす高校生のための保育体験ツアー」は当初8月に計画するも、12月に延期した。しかし、12月に入って、県内に10代の新型コロナ感染者が出て、高校が数日間休校になるなどの事態が生じ、やむなく中止とした。その代わりに、「保育者をめざす高校生のための保育体験ツアー・保育学科について分かるガイドブック」を作成し、申込者（高校生）や県内高校に郵送・配布した。</li> <li>・第37回近県高等学校英語弁論大会、第3回チアダンスin高松大学・高松短期大学 コロナ禍のため中止とした。</li> <li>・たーちゃん絵本ひろば 開催予定3回のうち、第1回の7月は新型コロナ感染防止のため中止とした。12月と2月の2回は参加者を募らず、学生のクラブ員のみで模擬保育形式で実施した。</li> </ul>	
	<input type="checkbox"/> 季節行事の実施（七夕、クリスマス）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染防止に留意し、7月には保育学科学生による七夕飾り、また12月には本館1階ホール等にクリスマスツリーを設置し季節行事を実施した。</li> </ul>	III
	<input type="checkbox"/> 2021年度卓上カレンダー製作、学園グッズ製作・売店販売等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度卓上カレンダーを製作し、教職員、関係機関等に配布した。新型コロナ感染防止のため、たーちゃんマスクを制作し教職員に配布するとともに売店での販売を行った。</li> </ul>	III
<b>【14】</b> 学術交流協定の締結による留学生の受け入れと受け入れ環境の整備	<input type="checkbox"/> 海外の交流協定大学との交流を推進するとともに、新たな交流協定締結大学の開拓等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全世界での新型コロナ感染拡大に伴い、海外との往来を伴う交流は実施できなかった。</li> <li>・3月に大学間交流協定を締結している台湾の開南大学とオンライン会議を実施し、学生交流や教員交流等についての意見交換を行った。</li> </ul>	III
	<input type="checkbox"/> 留学生支援 海外の留学生の受け入れを積極的に行うため、受け入れ環境（授業料等の経費について配慮を行う等）を整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術協定校であるジェンデラル・スティルマン大学（インドネシア）から1名、教育交流校である青島旅游学校から1名、及び国内の日本語学校で学んでいる留学生9名の合計11名</li> </ul>	III



	し交流を推進する。	<p>の私費外国人留学生を受け入れた。また、留学生のうち、経済的に就学が困難な留学生の経済的負担を軽減し、勉学・研究に支障がないよう、「高松大学・高松短期大学私費外国人留学生学納金減免に関する規程」及び「高松大学・高松短期大学私費外国人留学生学納金減免に関する申し合せ事項」に基づき、38名に授業料の減免を行うとともに、学術協定校からの新規入国留学生に、大学が借り上げた宿舍の提供を行った。また、入国後の手続き等を円滑に行えるように、チューターによる生活支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響のため、留学生の入学前セミナーや4月の留学生オリエンテーションを実施することができなかったが、対面授業開始後に、充実した留学生活を送るためのルールや手続き等についての説明会を行った。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で日本に入国できない新入生や一時帰国中で再入国できない留学生に対し、学部と連携して履修登録、遠隔授業等の支援、及び入国に関する情報の提供と手続きを実施したが、相手国の通信事情から多々問題が発生した。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響のため、学生研修旅行、留学生新年交流会を実施することができなかったが、3月に大学コンソーシアム香川主催のオンライン留学生交流会に3カ国3名の留学生が参加し、他大学留学生と意見交換等を行った。</li> </ul>	
<p><b>6. 教員・教員組織</b></p>	<p>教員の採用や昇任については、任用基準や昇任内規に基づき人事委員会で審査を行い、その後、教授会の議決を経て学長が最終決定しており、公正性・適格性は確保できている。</p> <p>また、教員の勤務時間における教育・研究・大学運営・社会貢献に従事する時間の配分の見直しや教員間の授業時間数の平準化を図り、研究活動を活性化するため、必要な非常勤講師を配置し、研究時間の確保など教育研究環境の整備に努めた。</p> <p>教員のFD活動については、コロナ禍の中の在宅学習における授業方法等の改善を図るため「リモート授業におけるICT機器の利活用」研修を実施した。</p>		
<p>【15】 教育研究を円滑に実施するための有効かつ適切な教員配</p>	<p><input type="checkbox"/> 建学の精神及び教育理念・教育目標を実現するために、適切な教育研究組織を整備する。</p>	<p>・教員の採用や昇任については、大学・短大それぞれの昇任基準や昇任内規に基づき、人事委員会、教授会において厳正な</p>	<p>III</p>

置、厳正な選考及び公正かつ適切な昇任		<p>審議を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間における授業時間数の平準化を図るため、必要な非常勤講師を配置し、研究時間の確保など教育研究環境の整備に努めた。原則として年間14コマとし、教員間における授業時間数の平準化を図ったが、専門分野によっては17、18コマを担当する教員が若干名いる。また、授業のコマ数のカウント方法において、単独で担当する場合と複数教員で担当する場合等のコマ数の計算方法が課題となった。</li> </ul> <p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報、企業経営及び金融の各分野から3人の教員を迎えたことにより、教育の幅と深さを向上させることができた。</li> </ul>	
【16】 教員のFD活動の積極的な推進	<input type="checkbox"/> 教員の資質向上を目的とした外部研修への積極的参加の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学部長会議</li> <li>・中四国保育士養成協議会総会</li> <li>・保育士養成協議会等による研修</li> <li>・全国保育士養成セミナー、全国保育士養成協議会研究報告</li> <li>・医療秘書教育全国協議会教員研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研修会については、コロナ禍のために、中止もしくは開催方法が書面開催あるいはオンライン開催になるなどしたが、担当教員がオンラインでの会議に参加した。</li> </ul> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療秘書教育全国協議会教員研修会の研修会にオンラインで参加した。</li> </ul>	Ⅲ
	<input type="checkbox"/> 学内でのFD研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD活動推進委員会でFD研修会の検討を行い、9月に希望する教職員向けに「リモート授業におけるICT機器の利活用」研修、12月に発達科学部の「小学校の授業における電子黒板の操作及びデジタル教科書等の活用」研修を対面で実施した。コロナ禍のため、全教員対象の「ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～」研修は、教材動画配信により実施し、全教員が視聴した。</li> </ul>	Ⅲ
【17】 研究紀要への論文の投稿の奨励及び研究紀要編集委員会における審議等	<input type="checkbox"/> 情報発信基地としての役割と地域貢献、研究機関として研究成果の発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要第74・75号の発行及びweb上での公開</li> <li>・香川共同リポジトリへの参加により紀要を発信し、情報の共有・交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要第74、75号の発行及びWeb上で公開した。 研究紀要第74号 原著論文9、研究ノート4 研究紀要第75号 原著論文8、研究ノート10</li> <li>・香川共同リポジトリで研究紀要を公開した。</li> </ul>	Ⅲ

<p>【18】教員の教育研究活動等の実績・成果についての全学的な評価システムによる評価の実施及び学生の授業評価による優秀教員の表彰等</p>	<p>□教員の教育研究活動等の実績・成果についての人事施策業務モチベーションを高めるために教員評価をより適正なものとし、昇格制度、給与体系の改善を図る。</p>	<p>・コロナ禍において令和元(2019)年度末と令和2(2020)年4月新規採用教員の学長面談は実施できなかったが、令和2(2020)年度においては9月及び3月に、各教員から提出された「令和2年度教育研究等実施報告」並びに「令和3年度教育研究等実施計画」に基づき、全教員との面談を実施した。面談では、実施報告、実施計画に記載された、「授業活動」、「ゼミナール・研究室活動における卒業論文・卒業研究指導、就職指導、生活指導」、「正課教育以外の学内活動」、「正課外の検定・試験対策などの指導」、「社会活動」、「研究計画」等について意見交換等を行い、教育活動の充実につなげた。学長面談の実施に留まり、評価要領(評価基準、評価項目等)を明確にして、事前に教員に周知して評価をするには至っていない。</p>	<p>II</p>
<p><b>7. 学生支援</b></p> <p>修学支援では、国の高等教育の修学支援制度の見直しに伴い本学の奨学制度を見直し、令和3年度入学性から、経済的負担の軽減を目的とした奨学制度から育英を目的とした奨学制度に変更するとともに、減免方式から支給方式に変更することとした。また、コロナ禍の経済支援として、学生食堂・売店で利用できるミールクーポン(2500円分)を在学生全員に配付するほか、遠隔授業に対応できるように、在宅における情報通信の学習環境の改善を図るため、全学生を1人5万円の「学習環境整備支援金」を支給した。</p> <p>また、生活支援では、学生の心のケアを充実するため引き続き臨床心理士によるカウンセリングを実施するとともに、学生学習支援室を新たに設置し、障害のある学生への支援の強化を図った。</p> <p>さらに、進路支援では、ゼミナール・研究室担当教員とキャリア支援課、キャリアカウンセラーが緊密に連携を取りながら就職支援に努めた結果、コロナ禍ではあったが、ほぼ前年度並みの就職率を達成することができた。</p>			
<p>【19】エンロールメント・マネジメントを効果的・効率的に行うために、総合的(修学、生活、進路等)な学生支援センターの整備及び教職協働による推進</p>	<p>学部・学科教員、研究室担当教員と学生支援部各課の連携により、学生の情報を共有し、きめ細やかな支援を行う。</p> <p>①修学支援</p> <p>□修学支援制度の見直し</p> <p>国の高等教育の修学支援制度の見直しに伴い、本学の修学支援制度のあり方について見直しを行う。</p>	<p>・国の修学支援新制度に伴い、本学の奨学制度のあり方について、関係委員会等において審議を重ね、令和3(2021)年度入学生から、①奨学生入試の趣旨を経済的負担の軽減を目的とした奨学生入試から育英を目的とした奨学生入試へ変更、②減免方式から支給方式に変更した。</p>	<p>IV</p>
	<p>□障害学生支援体制の充実</p> <p>・昨年の活動や本学の実態を踏まえ教職員及び学生も含め障害学生支援体制の充実を図る。</p>	<p>・「障害のある学生支援規程」「障害のある学生支援について(申し合せ)」に則り、学生から提出のあった配慮申請書に基づき、学生と配慮内容の合意を諮り、大学9名、短期大学1名</p>	<p>IV</p>

<p>・SA等を活用した障害学生支援</p>	<p>に配慮を行った。配慮内容については教務課から関係授業担当教員へ、「障がい学生の受講に関するお願い」を手交し、協力依頼を行った。なお、障害学生支援でのSA制度の利用はなかったが、ipadやICレコーダー等を貸出し、支援を行った。</p>																									
<p>□地域社会に奉仕する学生の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、サークル活動や個人で実施するボランティアの紹介、学部・学科へのボランティアの仲介を行ったが、コロナ禍でボランティアの活動範囲が制限された。</li> <li>・12月6日に実施された古高松地区河川一斉清掃に学生37名、教職員27名が参加した。</li> <li>・機能別消防分団（8名）を結成したが、新型コロナの影響のため、行事等に参加することができなかった。</li> </ul>	III																								
<p>□奨学生・経済的支援</p> <p>学術振興基金(国際交流助成)、学長表彰(学術・文化・スポーツ等の各部門における顕著な成果を挙げ、本学の名誉を高めた者を対象)、学科長表彰 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内奨学生(特別・スポーツ・一般)、社会人、留学生対象の授業料減免を行った。また、学内外の奨学金の受給、貸与、授業料減免などの経済的サポートについての支援も行った。また、学納金の一括納入が困難な学生に対し、徴収猶予や分納の手続きの案内及び手続きを行った。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">在籍学生数(令和2(2020)年5月1日現在)</p> <p style="margin-left: 40px;">大学667名、短期大学254名、大学院 2名</p> <p style="margin-left: 20px;">奨学生数</p> <table style="margin-left: 40px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">大学</td> <td style="padding-right: 10px;">85名</td> <td>(12.7%)</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">特別</td> <td style="padding-right: 10px;">33名</td> <td>(入学金減免のみ13名を含む)</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">スポーツ</td> <td style="padding-right: 10px;">40名</td> <td>(入学金減免のみ1名を含む)</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">一般</td> <td style="padding-right: 10px;">12名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">短期大学</td> <td style="padding-right: 10px;">27名</td> <td>(10.6%)</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">特別</td> <td style="padding-right: 10px;">22名</td> <td>(入学金減免のみ8名を含む)</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">スポーツ</td> <td style="padding-right: 10px;">2名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">一般</td> <td style="padding-right: 10px;">3名</td> <td></td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2(2020)年度の学長表彰は、団体2件であった。 11月26日 ハンドボール部 第72回日本ハンドボール選手権大会</li> </ul>	大学	85名	(12.7%)	特別	33名	(入学金減免のみ13名を含む)	スポーツ	40名	(入学金減免のみ1名を含む)	一般	12名		短期大学	27名	(10.6%)	特別	22名	(入学金減免のみ8名を含む)	スポーツ	2名		一般	3名		IV
大学	85名	(12.7%)																								
特別	33名	(入学金減免のみ13名を含む)																								
スポーツ	40名	(入学金減免のみ1名を含む)																								
一般	12名																									
短期大学	27名	(10.6%)																								
特別	22名	(入学金減免のみ8名を含む)																								
スポーツ	2名																									
一般	3名																									

	<p>四国ブロック予選 優勝 9月25日 サッカー部 2020年度第25回香川県サッカー選手権大会 (兼 天皇杯代表決定戦) 優勝</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の経済的支援として、学生食堂・売店でのみ利用できるミールクーポン(2500円分)を在学学生全員に配付した。</li> <li>・秘書科では、成績優秀者に対して3名の学科長表彰を行った。</li> <li>・コロナ禍における遠隔授業に対応できるよう、早急に学生のICT環境の整備を行う必要があったため、全学生を対象に1人5万円の「学習環境整備支援金」を支給し、情報機器等の学習環境の向上を支援した。各学部・学科によっても様相は異なるが、特に秘書科ではパソコンの所有について調査を行ったところ、令和2年(2020)4月時点では約70%であったが、9月時点では9割を超える91.5%の学生がパソコンを所有している。</li> </ul>	
<p>②生活支援 □課外活動の充実 大学行事(高松まつり、大学祭、オータムコンサート、卒業パーティなど)、クラブ活動等の正課外を通じた学生の交流の推進と事業の活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により、高松まつり、大学祭、定期演奏会(オータムコンサート)、卒業パーティは中止となった。</li> <li>・主に文化系クラブに西館4階の部屋を部室として貸与し、空室をサークル等の活動場所としても提供している。</li> <li>・コロナ禍の対応として、年度当初に新入生対象に実施しているクラブ・サークル紹介は見送り、一覧表を配布することで周知を行った。更に、学園だよりに新たに「クラブ・サークル紹介」コーナーを設け、活発に活動しているクラブ・サークルを学内外に広く紹介したが、コロナ禍での安全対策として、クラブ・サークル活動の自粛期間が設けられた影響により、例年に比べてクラブ・サークル活動の参加者が少なかった。</li> <li>・令和2(2020)年度は、申請のあった大学39団体(クラブ13団体、サークル26団体)、短期大学3団体(クラブ3団体)について、活動継続を承認した。活動費は主に後援会費から拠</li> </ul>	<p>III</p>

	<p>出しているが、サッカー部、ハンドボール部の全国大会への出場に際し、交通費、宿泊費等については補助を行い、学生の負担を軽減している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ・サークル活動の活性化を図るため、スポーツ奨学生として14名受け入れたほか、顕著な成績を挙げた者としてハンドボール部及びサッカー部を学長表彰した。</li> </ul>	
<input type="checkbox"/> 学生の海外研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・西安外事学院（中国）</li> <li>・ハワイ大学マウイカレッジ（米国）</li> <li>・ジェンデラル・スディルマン大学（インドネシア）</li> <li>・バンクーバーアイランド大学（カナダ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全て中止となった。</li> </ul>	—
<input type="checkbox"/> 学生相談の充実 <p>大学生生活相談、心身の健康相談や就職活動・進学サポートなどを総合的に支援できる学生相談体制の強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元（2019）年度に開始した臨床心理士によるカウンセリングを令和2（2020）年度も継続した。利用人数は12名で、延べ154回、計191時間35分の実施となった。</li> <li>・令和2（2020）年2月に学生相談室のあり方についての見直しが行われ、本来の学生相談、メンタルヘルスに関する業務を学生相談室で、障害のある学生支援に関する業務を学生学修支援室にて取り扱うこととなり、令和2（2020）年4月に学生学修支援室を設置した。</li> </ul>	Ⅲ
<input type="checkbox"/> 学生の健康促進（健康診断の実施）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で「3密」を回避するために、4月の健康診断は、卒業年次生・教育実習予定者・強化スポーツクラブの学生のみの実施とし、残りの学生は12月に実施した。</li> <li>・校医による健康相談を月に1回実施した。</li> </ul>	Ⅲ
<input type="checkbox"/> 禁煙講演会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月25日に、全学生、教職員を対象に禁煙講演会を実施し、学生54名が参加した。なお、講演を録画し、後日、動画の学内配信を行い、全学生、教職員が共有した。</li> </ul>	Ⅲ
<input type="checkbox"/> 保護者教育懇談会の実施（本学、愛媛）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により、愛媛会場での開催は中止し、9月26日に本学会場のみで開催した。また、全体会議は取り止め、ゼミナール・研究室担当教員との教育懇談のみを実施した。なお、当日、会場に来られない保護者には、オンラインで教育懇談を行った。</li> </ul>	Ⅲ

	案内者 大学620名、短期大学252名 (留学生、大学院生、休学者を除く) 参加者 大学 79名 (12.7%)、短期大学 37名 (14.7%) オンライン参加者 大学・短期大学 13名	
□ハラスメントに関する苦情の申し出及び相談に対する適切な対処とハラスメント防止のためのパンフレット等の作成・配布	・4月のオリエンテーション配布資料にパンフレットを同封し、学生相談室のオリエンテーションの際に、本学のハラスメントへの取り組み等を説明した。	III
③進路支援 □「Career Note」の作成、配布 スケジュール管理、また、自己分析から内定、内定後の報告及びお礼等までの就職活動に必要な内容を盛り込んだ「Career Note」を作成し、就職活動に活用する。	・経営学部、発達科学部、秘書科には9月の就職活動オリエンテーション、保育学科には2月のガイダンスで「Career Note」を配布し、就職活動に関する注意事項を周知徹底した。	III
□就職ガイダンス(セミナー、学内企業説明会等)の実施 ・キャリアカウンセラーによる就活スタートアップ講座 ・キャリアカウンセラーによる就職ガイダンス(3回) ・卒業生懇談会 など	・大学3年生、短期大学1年生を対象に、就職ガイダンス(セミナー、模擬試験、対策講座、学内企業説明会等)を実施し、大学は延べ529名、短期大学は延べ1,101名の参加があった。	III
□履歴書用紙の無料配布、進路(就職)相談票による希望調査	・履歴書が必要な学生に対して応募先を確認し、キャリア支援課窓口において、本学指定の履歴書を無料で配布した。 ・進路(就職)相談票を配布し、就職、進学等の進路希望を調査した。また、それに基づき、企業、病院、幼稚園・保育所・こども園等から受け付けた求人のあっせんをした。	III
□キャリアカウンセラーによる個別指導(履歴書作成支援、面接対策)	・毎週月曜日から金曜日までキャリアカウンセラーを配置し、キャリアカウンセラー、ゼミナール・研究室指導教員と連携を取りながら、履歴書作成、面接対策などの支援を行い、全国平均を上回る就職率を達成した。 経営学部 96.4% 発達科学部 100.0% 保育学科 100.0% 秘書科 98.2%	III

<p>□公務員試験、教員採用試験対策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員採用試験学内説明会（香川県、岡山県、東京都、他）</li> <li>・対策講座、模擬試験</li> </ul>	<p>・小学校教員、公立幼稚園・保育所を含む公務員希望者を対象とする資質能力向上プログラムを実施した。その結果、県内外で次のとおりの合格者数となった。</p> <p>発達科学部 27名（昨年度 18名）</p> <p>小学校 香川県5名（内1名辞退） 広島県1名 横浜市1名 高知県2名（内2名辞退） 大阪府1名（内1名辞退）</p> <p>特別支援学校 徳島県1名 愛媛県1名</p> <p>保育士 香川県1名</p> <p>幼稚園 さぬき市1名</p> <p>保育所 高松市4名 丸亀市1名 観音寺市1名</p> <p>認定こども園 高松市3名 東かがわ市1名 観音寺市1名 綾川町1名 まんのう町1名</p> <p>保育学科 3名（昨年度 4名）</p> <p>保育所 高松市3名（うち1名辞退）</p>	IV
<p>□検定、資格取得の支援</p> <p>入学前から、検定、資格を多く取得することを意識づけ、キャリア形成の一環として資格取得、検定合格に向け、正課、正課外の対策講座を充実させる。特に簿記検定においては、アクティブ・ラーニングによる学習や会計ソフトを使用し、知識やスキルと実務との合致を実感させ、意欲向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記検定3級</li> </ul>	<p>・授業に関連した数多くの検定試験を実施し、実務的評価が高く就職にも有利な資格の取得を支援した。本学を会場として受験できる試験も多数あり、多くの学生が簿記検定や秘書検定、パソコン関連などの資格取得にチャレンジした。</p> <p>（主な検定合格）</p> <p>経営学部 日商簿記2級：1名他</p> <p>秘書科 秘書技能検定2級：22名他</p> <p>また、検定試験合格を目標とする課外講座（簿記検定3</p>	III



<ul style="list-style-type: none"> <li>・リテールマーケティング（販売士）検定3級</li> <li>・ファイナンシャル・プランニング技能検定</li> </ul>	<p>級、リテールマーケティング（販売士）検定3級）を無料で開講した。学生が無理なく受講できるよう授業時間外に、学外の専門講師によるポイントを絞った学習内容で実施した。なお、簿記検定におけるアクティブ・ラーニングによる学習は、コロナ禍のため中止となったが、会計ソフトの開発・運用する企業を訪問し、地域の企業の中で会計の知識や簿記のスキルがどのように生かされているのかを、実際にソフトを使い実感できる講座を開講した。</p>	
<p>□障害学生の就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会参加引率、ケース会議出席等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部・学科、学生学修支援室と連携し、障害のある学生の就職支援を行った。説明会への参加引率及びケース会議への出席はなかった。</li> </ul>	III
<p>□アクセシビリティリーダーの育成</p> <p>アクセシビリティリーダー育成協議会の教材や認定試験等の育成プログラムを利用し、必要な知識・技術・経験とコーディネート能力を持った人材を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセシビリティリーダー2級受験者は13名で6名の合格者であった（合格率46.2%）。前年度の受験者が25名であったのに対して、受験者が減少した。これは、新型コロナ対策として対面型の説明会ではなく、Google Classroomを活用したためである。オンデマンド形式による説明会の実施とエントリーとしたことで、興味のある学生にしか情報が十分に行き渡らなかったことも考えられる。また、1級の認定試験については、1名が受験し合格した。1級認定試験の受験資格として必要となる外部講師による養成講座及び受験対策講座を11月に実施した。</li> </ul>	III
<p>□キャリア形成支援専門部会の開催</p> <p>各学部・学科のキャリア担当教員とキャリア支援課とが毎月会議を開き、一人ひとりの就職活動について情報を共有し、就職支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学及び短期大学の就職担当教員と学生支援部次長（キャリア支援担当）で構成するキャリア形成支援専門部会をほぼ毎月1回のペースで開催し、学生一人ひとりの就職活動の状況等を確認するとともに、就職関連情報の共有を図った。また、各種機関や企業の実施する説明会等について情報の提供を行った。</li> </ul>	III
<p>□求人開拓</p> <p>□インターンシップ先の開拓等の連携、支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部・学科の特性に合わせ、求人及びインターンシップの開拓を行った。</li> </ul> <p>（幼稚園・保育所・認定こども園）</p> <p>学部・学科の教員が実習先訪問の際、求人についても依</p>	III

	<p>頼し、4月下旬、県内の幼稚園・保育所・認定こども園約150園（所）に求人依頼の文書を郵送した。</p> <p>(医療機関)</p> <p>県内（学生の就職希望地）を中心に（5月上旬：調剤薬局、6月上旬：病院）約900医療機関に求人依頼の文書を郵送した。また、秘書科実習担当教員が実習先（特に学生が希望する機関）に直接求人を依頼した。更に秘書科の医療事務コースのことを広く県内の医療機関に知っていただくために、医療事務コースのリーフレットを作成し、求人票とともに送付した。加えて、「香川県医師会誌（年2回）」と「高松市医師会報（年4回）」に医療事務コースの広告を掲載した。</p> <p>(企業)</p> <p>2月中旬、県内を中心に約1,400事業所に求人依頼の文書を郵送した。また、求人依頼に來られた企業にエリア採用の有無を確認し、県外就職を希望する学生に紹介した。合わせて、留学生の採用の有無について確認し、該当する留学生に紹介した。更に、企業研究セミナーに参加した企業を訪問し、お礼も兼ねて求人及びインターンシップを依頼した。</p>	
□関連機関との連携、学外会議の参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、学外会議が中止になったり、Web会議による参加となった。</li> </ul>	Ⅲ
□就職資料室の充実（就職関連図書等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受付中の求人、企業パンフレット、卒業生が記録した就職活動報告書、就職関連図書、DVD等、就職活動に必要な資料を配架している。また、パソコンコーナーで、インターネットを通じて就職情報システムに登録した求人票を検索・閲覧したり、就職情報サイトからエントリーしたりすることができる環境を整備している。</li> </ul>	Ⅲ
□卒業生への支援及び在学生との連携に関する支援等 ・卒業生に関するアンケートの実施とその回答を踏まえた就職支援と授業内容の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会報に卒業生アンケートを同封し、回答回収後、回答をデータ化し、学生委員会で各学部・学科の意見を集約した上で、冊子への纏めを行った。</li> </ul>	Ⅲ

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会との連携（本学ホームページの卒業生サイトの拡充）</li> </ul>		
	<input type="checkbox"/> 身分証明書の発行	・新入生等への学生証の発行を行った。	IV
	<input type="checkbox"/> 円滑な大学生活への導入支援（新入生配付用資料）	・新入生へ、「新入生へのメッセージ（大明出版）」の冊子等を配布し、オリエンテーションにて説明を行った。	III
	<input type="checkbox"/> 学生ニーズの把握 特に本学に欠けているのは本学の大多数の学生が「何をもって学生生活の充実」としているかについての認識である。そこで、このニーズ把握の掘り下げを行う。	・全学生を対象とした学生生活調査、卒業年次生を対象とした満足度アンケートを実施し、結果の分析と考察を行った。特に自由記述については、各関連部署が真摯に受け止め、今後の改善策の参考にしている。	III
<b>8. 教育研究等環境</b>	<p>施設・設備の整備として、アクティブラーニングやICTを活用した双方向性授業を推進するための学内無線LANの増設や、コロナ感染防止の観点から分散授業を実施するために大講義室にプロジェクターを導入した。また、バリアフリー化を進めるため1号館にエレベーターを設置したほか、照明器具のLED化や外壁改修、駐車場舗装工事など計画的に実施した。</p> <p>また、科学研究費を活用した研究の推進については、教授会や個別面談等の機会を捉えて申請を促した結果2名3件の新規申請があった。</p> <p>図書館の整備充実については、学生の学習や教員の教育研究に配慮した図書資料等の充実を図った。</p>		
<b>【20】</b> 「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の計画的な整備及びその適切性について点検・評価、検証と改善	<input type="checkbox"/> 教室設備の老朽化対策並びにアクティブ・ラーニングやICTを活用した双方向性授業推進のための教室等の環境整備 AV機器の整備 本館（多目的ホール、206）体育館（武道場） 無線LANシステム増設 1号館、2号館、3号館、西館、図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本館2階201講義室・202講義室に、学内無線LAN増設（各講義室にAP3個追加）（文部科学省補助金）</li> <li>・新型コロナウイルス感染防止の観点から、3密を避け座席指定したことにより、1号館1401講義室（大講義室）を利用する機会が増えたため、香川県の補助金にてプロジェクターを導入した。また、体育館2階武道場においても使用頻度が高まったため、モニターを導入した。</li> </ul> <p>現在、予算の制約もあり、ICT環境の整備が遅れており、無線LANシステムや教室のAV機器の整備を計画的に進める必要がある。</p>	II
<b>【21】</b> 「環境整備に関する実施計画」に基づく教育研究などを支援する環境などの整備・充実	<input type="checkbox"/> バリアフリーに配慮した施設・設備の改修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1号館エレベーター棟取設工事</li> </ul>	・1号館エレベーター棟増築工事を実施した。	IV
	<input type="checkbox"/> 老朽化等に対応した施設・設備の改修	・照明器具のLED化については、本館2階201・202講義室を実	III

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LED化の推進（本館2階201、202）</li> <li>・1号館空調設備更新</li> <li>・1号館外壁改修工事</li> <li>・本館外壁補修工事</li> <li>・第5、7駐車場舗装改修工事</li> </ul>	<p>施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空調設備については、1号館の設備の更新を予定していたが、図書館の設備が故障したため、予定を変更して図書館の設備を更新した。</li> <li>・外壁改修については、1号館外壁改修を実施し、本館外壁補修は、翌年度に繰り越した。</li> <li>・駐車場舗装工事は、痛みの激しい第7駐車場のみを実施した。</li> </ul>	
	<input type="checkbox"/> 環境等の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・倉庫（兼車庫）の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倉庫（兼車庫）の整備については、保留とした。</li> </ul>	I
	<input type="checkbox"/> 各種システムの再構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務システム再構築（教務・入試・キャリア・学費・Webサービス）</li> <li>・会計システム再構築（会計・物品請求・旅費申請）</li> <li>・学内無線LANシステム増設（1号館・2号館・3号館・西館・図書館）</li> <li>・フィルタリングサーバ再構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・206講義室（パソコン41台）のOS入れ換え（Windows7Pro→Window10Pro）（後期から利用開始）</li> <li>・会計システム再構築（会計・予算）</li> <li>・Office365 A3導入</li> <li>・パソコン演習室（第2・第4・第5演習室）のプリンタ3台入替XL-4405</li> <li>・附属図書館3階用ノートパソコン9台購入（再掲）</li> <li>・本館2階201講義室・202講義室に、学内無線LAN増設（各講義室にAP3個追加）（文部科学省補助金）</li> <li>・事務システム再構築（教務・入試・キャリア・学費・Webサービス）、会計システム再構築（旅費申請）、フィルタリングサーバ再構築は、次年度再構築する予定である。</li> </ul>	III
【22】研修の機会（学会・研究会等に参加等）を確保するための適切な配慮及び科学研究費補助金・各種団体の研究助成等外部資金への積極的な申請・獲得	<input type="checkbox"/> 外部資金への積極的な申請・獲得 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に科学研究費補助金の本学全体の申請数向上、採択率向上をめざし、外部講師による、研究計画の立案、申請書の作成ノウハウ等について研修会（勉強会）を実施する。</li> <li>・研究モチベーションを高めるために、科学研究費補助金申請者にはインセンティブとして研究費を増額する。また、補助金獲得者について学長表彰・学部長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金の申請数向上をめざし、外部講師による研修会（勉強会）の実施を予定していたが、コロナ禍のため実施できなかった。また、令和元年度（2019）の申請は大学・短大ともに0件であったが、令和2（2020）年度の申請は大学2名3件であり、前年度と比較すると増加したものの、経営改善計画に掲げた目標値（申請件数 大学8件、短期大学4件）を達成することはできなかった。なお、申請した教員については研究費を増額した。</li> </ul>	II

	表彰をする。		
	□教員教育研究経費		
<p><b>【23】</b> 図書館機能の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実</li> <li>・図書館管理システムによる利用サービスの維持・向上</li> <li>・図書館利用に関するオリエンテーションの実施、情報検索・文献検索指導等の実施</li> <li>・レファレンスサービス、文献複写・相互貸借等サービスの提供</li> <li>・各種検定試験や教員採用試験・公務員試験など、学生のニーズに合わせた資料の収集・提供</li> <li>・書架の整備</li> <li>・地域開放、学外利用者の図書館利用の拡充</li> <li>・学生と地域の連携による実践力の向上及び地域貢献を目的とした地域連携事業(子ども達への読み聞かせ等)の実施</li> <li>・研究成果の発信と情報の共有・交換</li> </ul>	<p>□図書資料等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生参考用・図書館用等の資料の選定・購入・整理</li> <li>・2021年度契約データベース等の整備・サービス(EBSCO&lt;Business Source Premier&gt;年間契約料)</li> <li>・相互貸借・文献複写等ILLサービス</li> <li>・2020年度寄贈図書の受入及び除籍・処分資料の処理等</li> </ul> <p>□図書館の運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学図書館協議会・研修会への参加</li> <li>・2019年度図書館利用統計の作成・報告</li> <li>・2020年度図書館利用状況の作成・報告</li> <li>・2021年度発行雑誌・電子ジャーナル等外部データベース等の購入計画の作成</li> </ul> <p>□学生に対する利用指導の発展と継続による利用者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生全員に対する「情報リテラシー教育」</li> <li>・在学生に対する情報探索をサポートする「論文検索指導」</li> </ul> <p>□学生の読書を推進する事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書評・読書感想文コンクール等</li> <li>・学生によるブックハンティング</li> <li>・図書館展示(通年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部・学科からの要望や学生リクエストにより、図書、雑誌、視聴覚の各資料を整備した。データベース(EBSCO)を学内外から利用できるようにした。</li> <li>・相互貸借(依頼57件、受付5件)、文献複写(依頼88件、受付32件)のILLサービスを実施した。</li> <li>・寄贈図書137冊の受入及び除籍図書224冊を処分した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場開催は中止され、オンラインによる研修会が開催されたが、館内業務に従事しながらリアルタイムで参加することが困難であり、後日送付のあった会議報告等を閲覧した。</li> <li>・2019年度図書館利用統計を作成し、令和2(2020)年度第2回附属図書館・情報処理教育センター運営委員会及び教授会にて報告した。</li> <li>・2020年度図書館利用統計を作成し、令和3(2021)年度に報告予定。</li> <li>・2021年度発行雑誌・電子ジャーナル等外部データベース等の購入希望調査を実施し、継続68点、新規5点、中止5点を決定した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の利用説明、検索指導を各学部・学科で実施しているが、その際、必要に応じて、指導時の資料の準備及び図書館での資料探索時の対応を図書館職員が行っている。令和2年度は、新型コロナ感染防止対策を取りながら、新入生約230名に対し、計8回の利用指導を実施した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書評・読書感想文コンクールを実施し、受賞者11名に対し、表彰を行った。</li> <li>・学生によるブックハンティングは、書店での3密回避のため、中止とした。</li> </ul>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館報等の印刷・配布等</li> </ul> <p>□学生サービスの向上を目的としたメディアルーム等の活用と図書館における学習支援の実施による利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の情報収集支援として、ILL利用料の無料化</li> <li>・図書館を活用しての授業・ゼミ活動への協力・支援</li> <li>・2階閲覧室及び3階メディアルームのノートPCなどの環境整備と活用</li> </ul> <p>□自主的な学習の場として、図書館の利用・活用の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職関連、検定用や季節の絵本等のミニコーナーを設け、関係資料を配架した。取引書店からのSDGs私募債による寄附受入に関する資料の展示も行った。</li> <li>・図書館報第25号を発行し、近隣図書館等への配布を行うとともに次年度の在学生への配布も行うこととした。</li> <li>・学生の情報収集支援として、ILL利用料を無料化し、44件の利用があった。</li> <li>・グループ学習等、図書館を活用したゼミナール活動、授業を実施した。</li> </ul>	<p>III</p> <p>III</p>
<p>【24】 教員及び研究者における研究倫理の遵守及び研究活動の不正防止のための研究倫理審査委員会での審査・判定、不正防止に関する諸規程のデスクネッツへの掲載等による周知徹底</p>	<p>□eラーニングによる倫理教育（日本学術振興会）</p> <p>研究を進めるにあたって知っておかなければならない行動規範などの研究倫理を遵守し、研究活動の不正防止のため、eラーニングによる倫理教育を受講する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理教育については、平成30（2018）年度に全教員を対象に一斉受講し、その後は毎年新規採用教員を対象として実施している。令和2（2020）年度は新規採用教員8名が日本学術振興会のeラーニングによる倫理教育を受講し、受講後は修了証明書を総務課に提出した。</li> </ul>	<p>IV</p>
<p><b>9. 地域連携・地域貢献</b></p>	<p>大学コンソーシアム香川を通じて、県内大学等と連携して進学説明会や広報事業等を行ったほか、本学が主担当として公開講座を動画配信するとともに、大学コンソーシアム香川として初めて活動報告会を開催した。</p> <p>また、地域でのボランティア活動については、新型コロナの影響により中止したり縮小して実施するとともに、公開講座や文化講座は春講座を中止し、秋講座のみ開催したほか、共催事業や作品展も中止になるなど、講座数や受講生が大幅に減少した。</p> <p>短期大学の学生と教職員有志が手づくりの医療用ガウン1000着を製作し、感謝のメッセージを添えて香川県医師会に寄贈した。</p>		
<p>【25】 「地域を元気にし、地域の発展を支える大学・短期大学づくり」をテーマに掲げた地域社会の発展と安定に貢献できる</p>	<p>□地域のネットワークづくりとその事業内容の充実（連携協定書等に基づく地域連携の推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学コンソーシアム香川を通じた他大学等との連携・交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学コンソーシアム香川（本学が事務局担当）の運営委員会等での協議を重ね、各種連携事業を推進するとともに、本学が主担当である公開講座を、コロナ禍の状況を踏まえ、動画配信で実施した。3月には大学コンソーシアム香川として初</li> </ul>	<p>III</p>

<p>創造的な研究の推進とその成果の教育及び社会貢献活動への活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県キャンパスメンバーズ制度、高松市キャンパスメンバーズ制度の活用</li> <li>・連携協定締結先（高松市、東かがわ市、坂出市、高松商工会議所、一般社団法人香川経済同友会、国民生活金融公庫（現 日本政策金融公庫）、カマタマーレ讃岐、むれ源平石あかりロード実行委員会、一般社団街角に音楽を@香川、NPO法人アーキペラゴ、丸亀町商店街振興組合）との連携活動</li> <li>・近隣のコミュニティー等との地域活動の推進</li> </ul>	<p>めて活動報告会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の香川県内の施設利用が無料となる香川県キャンパスメンバーズ制度、高松市キャンパスメンバーズ制度を活用し、学生に香川県内の施設（栗林公園、香川県立ミュージアム、高松市美術館等）の利用しやすい機会を提供した。</li> <li>・コロナ禍のため多くの連携協定先のイベントや地域イベントが中止等となり、例年のような学生を中心とする活動はできなかった。3月には三木町と包括連携協定を締結し、先ずは子育て支援について連携を進めることとなった。</li> <li>・高松市民大学開催（高松市との共催） 令和2年（2020年）11月29日（日）に「高松市民大学2020」を開催し、You Tube Liveでの配信も実施した。</li> <li>・秘書科の「ビジネス実務」の授業では、NPO法人アーキペラゴと協力して、前期にさぬきマルシェinサンポートに出店した。また、後期の店舗実習は、コロナ禍の影響のため店舗外からの観察実習のみ行った。</li> </ul>	<p>III</p>
<p>□地域でのボランティア活動の実施 地域活性化活動と密接に連携して、地域社会の発展に貢献するとともに、これらの活動を学生の教育・研究に反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むれ源平石あかりロード</li> <li>・ウクレレええど</li> <li>・国際フェスタ</li> <li>・読み聞かせ隊（読み聞かせキッズ養成講座（高松市図書館との共催））</li> <li>・大学祭における絵本の展示・読み聞かせの協力・支援と図書館活動の展示（明治百年記念香川県青少年基金助成「子どもの読書推進活動支援事業」）</li> <li>・げんき村わんぱく通り</li> <li>・「二十四の瞳」学習支援体験推進プログラム</li> <li>・子育て支援事業「はぐくみ×カレッジ」（さぬきこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「むれ源平石あかりロード」「ウクレレええど」「子育て支援事業「はぐくみ×カレッジ」」は、コロナ禍のため中止となった。</li> <li>・読み聞かせ隊の活動は、コロナ禍のため縮小せざるを得なかったが、図書館等からの依頼に応じて8回の活動を行うことができた。</li> <li>・大学祭の中止に伴い、げんき村わんぱく通りの最大イベントが実施できなかった。しかし、手作りのゲームの考案・作成、出張げんき村として保育所・幼稚園などのイベントに参加した。</li> <li>・「二十四の瞳」プロジェクトは、コロナ禍のために中止となってしまったが、その代替行事として、小豆島の小学校や子ども園とオンライン交流を行った。また、壁面装飾やおもちや、紙芝居の制作、おはなし会や絵本作りのワークショップを開催することができた。</li> </ul>	<p>III</p>	

<p>どもの国主催)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学部では「地域連携活動Ⅰ、Ⅱ」の受講生に対して、源平史跡の研修、石の民俗資料館等での研修を実施してレポートを作成させるとともに、オープンキャンパスでの活用を想定したパワーポイントの作成及び発表を行った。また、令和3（2021）年度のテーマである「元気な昭和」について研究させ、次年度の開催につなげる検討を行った。</li> <li>・短期大学学生及び教職員有志により、6月の対面授業開始後から3月まで、継続的に手作りの医療用ガウン（代用品）の製作を続け、香川県医師会に1,000着を寄贈した。なお、香川県医師会から感謝状をいただくとともに「今後PCR検査時等に地域医療のために役立てたい」との言葉をいただいた。</li> </ul>																													
<p>□多様な講座を開講して、地域の方々の学習ニーズに応えるとともに、地域社会を支える人材育成等に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座（行政連携講座、他大学との共催講座を含む）</li> <li>・文化講座（春コース、秋コース）、作品展開催（年2回）</li> <li>・高松教養大学（第7期生）</li> <li>・市・町との共催事業（高松市民大学、屋島カレッジ、町民大学、コミュニティセンター講座）</li> <li>・県との連携事業（キャンパス講座）</li> <li>・新規講演会 1講演</li> <li>・CATVを活用した放送事業</li> <li>・TCEC NEWSの作成・配布（年3回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染対策を十分に行い、10月以降の秋コースのみ実施した。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>公開講座（秋）</td> <td>6講座</td> <td>受講生</td> <td>80名</td> </tr> <tr> <td>文化講座（秋）</td> <td>28講座</td> <td>受講生</td> <td>273名</td> </tr> <tr> <td colspan="4">共催事業（8講座 173名）</td> </tr> <tr> <td>町民大学</td> <td>3講座</td> <td>受講生</td> <td>81名</td> </tr> <tr> <td>コミュニティセンター講座</td> <td>4講座</td> <td>受講生</td> <td>70名</td> </tr> <tr> <td>高松市民大学</td> <td>1講座</td> <td>受講生</td> <td>22名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>526名</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※コロナ禍のため、4～9月の春コース、高松教養大学、屋島カレッジ、キャンパス講座、作品展は中止とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携センターニュース「TCEC NEWS」第56号（9/1）、第57号（3/1）を発行した。</li> </ul>	公開講座（秋）	6講座	受講生	80名	文化講座（秋）	28講座	受講生	273名	共催事業（8講座 173名）				町民大学	3講座	受講生	81名	コミュニティセンター講座	4講座	受講生	70名	高松市民大学	1講座	受講生	22名	合計	526名			II
公開講座（秋）	6講座	受講生	80名																											
文化講座（秋）	28講座	受講生	273名																											
共催事業（8講座 173名）																														
町民大学	3講座	受講生	81名																											
コミュニティセンター講座	4講座	受講生	70名																											
高松市民大学	1講座	受講生	22名																											
合計	526名																													
<p>□地域経済情報研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会の開催（研究交流事業）年5～6回</li> <li>・研究会の公開（成果の公開）年に1回、一般公開</li> <li>・産官等との連携（共同研究、学術調査事業）、香川県政策部統計情報プラザとの共同研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済情報研究所研究会 コロナ禍のため、研究会については例年通りの回数は実施できなかったが、年3回はどうか実施できた。なお、新型コロナの影響を考慮して研究会の公開は断念した。</li> <li>・コロナ禍のため、産官等との連携については、香川県政策部統計情報プラザとの交流会を1回しか開催できなかった。</li> </ul>	II																												
<p>□子ども研究所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元（2019）年度3月開催予定の研修会を令和2（2020）</li> </ul>	III																												



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育所、幼稚園・子ども園、小学校教員の集い」の開催及び報告書発行</li> <li>・「所報 子育て」発行</li> <li>・関係機関との連携及び子育て相談や研修(顧問含む)、調査 高松市手をつなぐ育成会との連携を図り、各種相談、支援にあたる。</li> <li>・卒業生の状況を調査し、今後のアフターケアを具体化する。</li> </ul>	<p>年度に延期し、令和2(2020)年度は11月と2月に2回研修会を実施した。新型コロナウイルス感染予防に配慮し、オンライン研修とし、より多くの方に参加いただけるようアーカイブ配信期間を設けた。県内の保育・教育機関の先生方から各回約60名の参加申込があり、保育学科及び発達科学部の学生もアーカイブ配信期間に聴講した。</p>	
	□教員免許状更新講習の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究活動の成果の活用による地域社会への貢献として教員免許状更新講習を開講した。必修領域講習2、選択必修領域講習3、選択領域講習14を開講し、延べ人数388名が受講した。</li> <li>なお、現在使用しているシステムは、様々な不具合が報告されている。</li> </ul>	Ⅲ
	□学外利用者への図書館サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県内に在勤、在学中の15歳以上の者に対し、図書館の利用登録を受入れているが、令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、ほぼ利用を休止した。</li> </ul>	—
<b>10. 大学運営</b>	<p>理事会・評議員会は、新型コロナウイルスの影響もあり、開催日によっては書面による意思表示を依頼した理事・評議員もいたが、その都度、必要な議案について審議を行い、活発な議論が交わされた。</p> <p>また、令和3年度の事業計画及び予算を策定するにあたり、予算編成方針を示し中期目標・中期計画委員会で重点施策も含め、新規事業や自己点検・評価結果を踏まえて改善する事業等について、全学的な観点から令和3年度の事業計画について審議を行った。</p> <p>教員の人事評価については、教育面、研究面、大学運営面、社会貢献活動の4つの事項について行うこととしているが、具体的な評価項目や評価基準、評価の観点、評価結果の活用等について定められておらず、他の大学の実施例も参考にしながら引き続き検討することとしている。</p>		
<b>【26】</b> 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」を踏まえた多様性や柔軟性の確保、中・長期目標、計画に基づいた全教職員の意識の共有化	<p>□中期目標・計画に基づく事業計画説明会 全教職員(認定こども園教職員を含む。)を対象に、中期目標・計画に基づいた毎年度の年次計画について説明を行い、当年度の目標、業務の達成状況を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染防止のため、一堂に会しての説明会は中止とし、各部局等(理事長・学長、研究科、学部・学科、入学センター、キャリア支援課)の事業計画をデスクネットの文書管理に掲載し、大学全体で共有した。</li> </ul>	Ⅲ

と推進			
【27】理事会、評議員、監事の機能の充実	□理事会・評議員及び監事監査（監事研修会等含む。）	・令和2（2020）年度は理事、評議員及び監事の改選の年度であり、改選にあたっては、本学のこれまでの歴史、私学の現状、男女のバランス等を考慮し、大学改革を進めるにあたり、高等教育に知見を有する人材を選任した。令和2（2020）年度は新型コロナの影響もあり、開催日によっては書面による意思表示を依頼した理事・評議員もいたが、理事会を7回、評議員会を5回開催し、都度、必要な議案について審議を行い、活発な議論が交わされた。	IV
【28】管理運営体制の整備・充実及び適切な予算の編成・執行	□適切な予算の編成 予算編成方針の策定と中期目標・中期計画委員会における予算案の事前審査の実施	・令和3（2021）年度の事業計画及び予算を策定するにあたっては、「令和3年度予算編成方針」が示され、①情報教育基盤の整備、②教育の質保証及び学修支援体制の充実、③危機管理対応の充実の3点が重点施策として挙げられた。中期目標・中期計画委員会において、この重点施策も踏まえ、各学部・学科、学生支援部において、特に力を入れて取り組もうとしている事業や、新規の事業、自己点検・評価結果を踏まえて改善する事業等について、全学的な観点から令和3（2021）年度の事業計画について審議を行った。しかし、今年度の進め方やスケジュールにおいて課題も挙げられたため、次年度以降においては見直しが必要である。	II
【29】事務組織の見直し・改善による機能強化及び定期的な事務連絡会の開催、事務部の集約化の検討	□事務連絡会 職場の良好な雰囲気や環境を整えることが重要であり、各部署が情報の共有化を図るために事務連絡会を適宜開催する。	・これまで事務を担当する各課の代表者が集まる事務連絡会の開催については、必要に応じてその都度、開催案内をしていたが、令和2年度においては、原則として毎月第3木曜日に開催することとし、4月に年間の開催スケジュールを周知し、5月以外は予定どおり開催した。なお、事務連絡会においては、各課等の行事予定の確認や理事会、教授会での審議、検討事項などを伝達する等、情報共有を行った。	III
【30】教員、事務職員等の資質・能力の向上と意識改革、外部研修会への参加や定期的なSD研修会の充実	□新任職員説明会 本学の建学の精神、教育理念、組織等に関する知識の共有、また、本学で就業する上で必要な事務手続き等について、新任職員を対象に説明を実施する。	・10名の新規採用教職員を対象に、学長から建学の精神・ビジョン・教育方針等の説明及び事務局各課から事務手続き等について説明を行った。説明会後に提出されたアンケート（令和2年度新任職員説明会に参加して）において、「建学の精	III

		神」、「学園の沿革・組織」、「事務手続きの概要」について理解できたという意見があった。一方、近々で必要となる「授業に使用する書籍の購入方法」、「名刺の作成」、「Campus Squareの利用方法」についても説明があれば助かったという意見もあった。	
<input type="checkbox"/> 人事考課 職員的能力、適性、努力、実績等を正しく評価し、その評価結果を職員の意識改革、能力開発、人材育成、人事面での処遇等に活用し、効果的・効率的な組織運営や職員の意識醸成、勤労意欲の向上を実現させるとともに、元気のある大学づくりをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の人事評価は、教育面、研究面、大学運営面、社会貢献活動の4つの事項について行うこととしているが、具体的な評価項目や評価基準、評価の観点、評価結果の活用等について定められておらず、実施できていない。また、事務職員においては、令和元（2019）年度までは勤勉手当に結果を反映する人事考課制度を運用してきたが、公平性や納得性などにおいて制度運用上の課題があり、本来の趣旨である教職員の能力や意欲を高めるための制度として逆効果となる課題等が見受けられたため、改めて運用状況について検証を行い、試行的に新たな様式で令和2（2020）年度の人事評価を実施した。実施に際しては、事前に事務連絡会で評価項目の見直し等について説明の上、実施した。</li> </ul>	II	
<input type="checkbox"/> 加盟協会等の研修会 教職員の資質・能力の向上等のため、必要に応じて外部研修会へ参加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、多くの研修会等が中止となった。また、開催方法がオンライン形式やオンデマンド形式に変更となった研修会等については、出来る限り参加した。</li> </ul>	III	
<input type="checkbox"/> FD研修会、SD研修会等の実施 FD活動推進委員会及びSD活動推進委員会での研修会等の検討、実施	(再掲) <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD活動推進委員会でFD研修会の検討を行い、9月に希望する教職員向けに「リモート授業におけるICT機器の利活用」研修、12月に発達科学部の「小学校の授業における電子黒板の操作及びデジタル教科書等の活用」研修を対面で実施した。コロナ禍のため、全教員対象の「ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～」研修は、教材動画配信により実施し、全教員が視聴した。</li> <li>・SD活動推進委員会でSD研修会の検討を行い、コロナ禍のため、全教職員対象の「クレーム対応実践」研修は、教材動画配信により実施し、全教職員が視聴した。1月に新規採用教職員向</li> </ul>	III	

		けの「本学園の経営・財務状況の把握・分析手法等について」の研修を対面で実施した。	
	□学部・学科会議、事業計画説明会等の機会を利用したハラスメント防止についての意識啓発の実施。	・学生及び教職員が常時携帯できるようにハラスメントのポケットガイドを作成した。作成したポケットガイドについては、学生には、令和3（2021）年度の前期オリエンテーションにて配布し、特に新入生については、学生相談室オリエンテーションにおいて、配布したポケットガイドを利用して、ハラスメント防止等について説明を行った。また、教職員には、3月5日（金）の教授会にて配布し、学長からゼミナール・研究室活動を通じて、ハラスメント防止のために活用してほしい旨の依頼があった。加えて、4月1日（木）の事業計画説明会の際に、理事長・学長から、ハラスメント防止宣言について説明があり、ハラスメントのない学園づくりのための意識啓発を図った。	IV
	□学生支援のための研修等		
【31】内部質保証機能、IR機能の強化による学内意思決定や教育研究活動の推進	□IR委員会の推進 ・大学IRコンソーシアムの「学生調査」（発達科学部1・3年生対象）の実施と結果の分析 ・短期大学基準協会「短期大学生調査」（短期大学全学生対象）の実施と結果の分析	・大学IRコンソーシアムの「学生調査」を発達科学部1・3年生、令和2（2020）年度からは初めて経営学部1年生対象に実施した。IR委員会で調査結果の出た「2019学生調査」の集計結果について、発達科学部の平成29（2017）年度入学生が1年生時と3年生時の比較分析を行った。 ・短期大学基準協会「短期大学生調査」を短期大学全学生対象に実施した。IR委員会で先ずは令和元（2019）年度入学生が1年生時と令和2（2020）年度の2年生時に回答した保育学科の結果を基に比較分析を行った。	III
【32】事業継続計画の策定			
11. 財務	<p>管理経費については、新型コロナの感染予防のため、スクールバスの増便などにより管理経費の削減はできなかった。</p> <p>また、光熱水費については、電気使用量についてデマンド監視に取り組むなど節減に努めたが、新型コロナの感染予防のため、窓開けを行った結果、空調効率が低下し、前年度から増加した。</p> <p>財務状況については、公認会計士及び幹事から定期的に監査を受けるとともに、その結果をホームページで公表した。</p> <p>経営改善計画に基づき経営改善に努めた結果、人件費比率については目標をクリアし、トータルとしては、本学の令和2年度の経営判断</p>		

指標（日本私立学校・共済事業団制定）は、目標のA3となった。			
<p><b>【33】</b> 中・長期的な計画に基づいた安定的な財務基盤の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期目標期間中の日本私立学校・共済事業団の経営判断指標のA3以上</li> <li>・部局毎の財務諸表分析と対策案の具体的な対策案の策定</li> <li>・中期目標期間中の学生定員充足率80.0%以上</li> <li>・中期目標期間最終年度の学生定員充足率90.0%</li> <li>・外部資金その他収入の積極的な確保と学納金依存体質の改善</li> <li>・人件費、管理経費等の見直しによる経費削減</li> <li>・照明器具のLEDによる省エネと教育環境の改善</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/>管理経費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務委託、保守、借料、補修修繕等</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>学長裁量経費</p> <p><input type="checkbox"/>光熱水費</p> <p><input type="checkbox"/>人件費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給与、福利費</li> <li>・退職金</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>省エネ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LED化の推進（本館2階201、202）</li> <li>・1号館空気調和設備更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染予防のため、スクールバスの増便などを実施したため経費の管理経費の削減はできなかった。</li> <li>・新型コロナ対策等を目的として学長裁量経費を利用した。</li> <li>・電気使用量については、デマンドの監視に取り組むなど節減に努めたが、新型コロナウイルス感染予防のため窓開けを行った結果、空調効率が低下し、前年度比105.1%となった。</li> <li>・水道使用量は、前年度比で98.2%となった。</li> <li>・人件費比率は、55.2%となり、同規模法人の52.4%と比較して少し高いが、目標数値の58.0%以内となった。</li> <li>・照明器具のLED化については、計画通り本館2階201、202講義室を実施した。</li> <li>・空気調和設備については、1号館の設備の更新を予定していたが、図書館の設備が故障したため、予定を変更し図書館の設備を更新した。</li> </ul>	<p>II</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>
<p><b>【34】</b> 学内外への財務内容の公開による財務の明確化・透明化、財務状況についての監査法人及び監事監査の定期的な実施</p>	<p><input type="checkbox"/>財務諸表等の公表</p> <p>財務諸表や監査報告書の内容をインターネットにより公表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務状況について、公認会計士及び監事から定期的に監査を受けるとともに、財務情報をホームページで公開している。</li> </ul>	<p>IV</p>
<p><b>12. その他</b></p> <p>高松大学・高松短期大学の運営に関する経常費</p>			